

知的障害児(者)の「内言」における思考の特徴についての検討 —筆談援助法による「言いたいこと」の分析から—

A study on "Internal Speech" and Communication of Intellectual Disabilities Children and Persons

大塚 美奈子
OTSUKA Minako

本研究では、中度・重度知的障害児(者)が筆談援助法を通じて書字した「言いたいこと」の内容についてKHCoderを用いて計量テキスト分析し、思考の共通点や障害に関する捉えについて検討した。その結果、【障害者として生きる意味】、【人の心にとって大切なこと】、【ダウン症として生まれた仲間】、【話を聞く、言葉を話す】の4つのテーマが抽出され、4つのテーマに共通して「仲間意識」と「障害受容」が含まれていることが示唆された。障害種別の特徴として知的能力障害(以下, ID)と脳性まひ(以下, CP)は抽出語の内容が類似しており、ダウン症と自閉スペクトラム症(以下, ASD)は他の障害種別とは抽出語の内容が異なることが示された。また、いずれの障害においても「自分の考えや言いたいこと『内言』はあるが、表出する段階でうまくいかない」という特徴があることが推察された。

キーワード：知的障害 筆談援助法 (Facilitated Communication) 内言 表出言語

I 問題と目的

障害の有無にかかわらず、人は自分の考えや意思を持つ。近年、重度障害者支援や認知症の看護において意思決定が重視されてきている(厚生労働省, 2017)¹⁾。意思を尊重したかかわりは、心の安定を図り活動意欲を引き出すために重要な要素である。知的障害児(者)にとって「日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができる」ことは、安心感や充実感・喜びが伴う状態であり、生活の質(quality of life : 以下QOL)の向上へとつながる。しかし、知的障害とは一般に同年齢の子どもと比べ、「認知や言語などにかかわる知的機能」が著しく劣り、「他人との意思交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であるので、特別な支援や配慮が必要な状態とされている(文科省, 2013)²⁾。知的障害児(者)のコミュニケーションに関する先行研究では、知的障害児(者)は、健常児(者)

と比べ語彙数や品詞別語数が少なく、健常者と同レベルの表出言語によるコミュニケーションをとることが難しいため、個々の状態や理解のレベルに合ったコミュニケーションの方法や手段について検討することに焦点が当てられてきた(亀畑・大嶋, 1989)³⁾。意志疎通が困難な者は、文字よりもシンボルなどの表象記号の方が、意志表示が容易で特別支援学校では、絵カード・視覚シンボル・サインシステム・VOCA・トーキングエイド・タブレット等の利用があることを報告している(佐藤, 2017)⁴⁾。小笠原・守屋(2005)⁵⁾は、知的障害児の行動問題に関する調査を分析し、コミュニケーション手段として言語表出を主とする児童生徒は行動問題の出現が少ない傾向にあり、他者に自分の意図が正確に伝わらないことが行動問題の出現要因として示唆されると述べている。こうした先行研究からは、意思表示につながる手段や方法はあるものの正確性という面では課題もあり、円滑に意思疎通を図るためには、意思を言語で表現して伝えることが重要な要素であることが窺われる。

そこで、知的障害児(者)の言語表出へのアプローチの一つである表出援助法・筆談援助法(Facilitated Communication: 以下FC)に着目した。FCは障害児(者)の腕や手を直接介助し、書字をサポートする方法で、表出言語がほとんどない重度のASD者でも会話ができたとある(東田・東田, 2005)⁶⁾。FCの先行研究では他にも重度知的障害児の言語表出を可能にした事例がある(若林, 1983⁷⁾・落合, 1993⁸⁾・要田, 2009⁹⁾・落合・小畑・井上, 2017¹⁰⁾。東田(2014)¹¹⁾は、作家として活動しASD者の内面について多くの情報を提供し、言語表出ができなくても心の中に言葉を持っていると述べている。この何らかの要因で表出できないが内部にある言葉を『内言(内部における言語による思考)』と呼ぶ。障害当事者からの情報は支援に役立つことが多い。木谷(2015)¹²⁾のASD当事者からの手記による自分の捉えについての分析や熊谷(2014)¹³⁾のASD当事者からのインタビューによる内面世界の分析などの研究もある。より多くの事例から共有できる情報を引き出すことができれば、意思を尊重したかわりにつながることが考えられる。FCについては、支持派と批判派の論争があり、毛塚(2014)¹⁴⁾が、書字の内容と知的能力とのずれがあることを指摘し、本人の言葉であるかどうか曖昧と方法論的批判を展開している。しかし、要田(2014)¹⁵⁾は、本人の考えが直接読み取れるため、当事者及び親が本人のQOLが向上したことを評価しており、現在もFCを利用し支援している家族や支援者たちがいると述べている。この意思を読み取り、本人や家族のQOLの向上へつなげることができるという点でFCを利用する意味があると考えられる。FCには、タイピングや文字盤ポインティング、指筆談などの方法があるが、柴田(2011¹⁶⁾・2013¹⁷⁾)は、指筆談援助法〔障害児(者)の指を持って補助しながら自分の手のひらに文字を書かせてその文字を読み取る方法: 以下指筆談〕を用い、重度知的障害を含むあらゆる人に言葉を語る可能性があると考え、複数の重度知的障害児(者)の書字を支援しその過程を報告している。『内言』を書き出す指筆談は、従来の紙とペンによる筆談やタイピング、文字盤ポインティング等に比べ、本人の負担が少なく、書字が短時間でできるという利点があるため、握る力が弱い、着席時間が短く多動性のある人にも利用可能であるため、用いることにした。

これまで、知的障害児(者)の「受容言語」についての研究(恵羅・伊賀・泉保, 2012)¹⁸⁾や前

述の軽度の当事者研究やFCの手法に関する事例研究はあるが、中度・重度知的障害児(者)の『内言(内部における言語による思考)』について着目し、複数の事例に共通する特徴を分析した研究はほとんど見られない。大塚(2022)¹⁹⁾は、重度知的障害者23名の指筆談による「言いたいこと」をテキスト分析した結果、他の人への関心や思い(仲間意識)が語られている点、自身の障害を受け入れている点が共通して示されたと報告している。しかし、事例数が少ない予備的調査であったため、今回は事例数を増やし、重度・中度知的障害児(者)の複数事例の『内言』に共通する考えや本人自身からみた障害特性について整理することで、共通点や特徴が明らかになり、より重度知的障害児(者)の意思に添った支援へつなげることができるのではないかと考えた。

本研究では、中度・重度知的障害児(者)が指筆談を通して語った「言いたいこと」の内容における共通点や自身の障害の捉えについて、計量テキスト分析法を用い、抽出語の種類や結びつき及び文脈から探ることを目的とした。

II 方法

1. 対象

指筆談学習会に参加した知的障害児(者)で療育手帳Aを取得している76名と療育手帳Bを取得している15名、計91名(男性45名、女性46名)を対象とした。生活年齢の範囲は、5～58歳で、平均年齢は20.75±11.80歳であった。内訳は、10歳以下20名、10代21名、20代33名、30代7名、40代6名、50代2名であった。障害種別は、知的能力障害18名、脳性まひ13名、自閉スペクトラム症、(42名)ダウン症18名が含まれている。対象者は、特別支援学校・特別支援学級・施設入所・通所等を利用する中度・重度知的障害児(者)であった。療育手帳A・Bについて東京都の分類²⁰⁾を参照した。療育手帳Aに該当する(1度最重度・2度重度)とB(3度中度)の判断については以下の通りである。[1度最重度：言葉でのやり取りやごく身近なことについての理解も難しく、意思表示はごく簡単なものに限られる。2度重度：生活習慣になっていることであれば言葉での指示を理解し、ごく身近なことについては、身振りや2語文程度の短い言葉で自ら表現することができるが、日常的に支援が必要な程度、3度中度：ごく簡単な読み書き計算ができるが、それを生活場面で実際に使うのは困難。日常会話はできるが支援が必要な程度。] 91名のうち、2度に該当する児(者)は23名、3度に該当する児(者)は15名で、簡単な指示の理解や日常会話が成立する児(者)は48名であった。

2. 手続き

202X年8月から202X年+2年6月の期間に、公民館や施設等で指筆談学習会を8回行い、参加した対象児(者)91名に各10分～15分程度の指筆談を行った。各会場の参加者は5～25名であった。指筆談は記録者1名が録画した。

(1) 書字表出援助者(以下、援助者)：援助者は4名で、援



図1 指筆談援助法

助者A：指筆談を研究する大学教員は60名，B：障害児個別支援を行う指導員は10名，C：指筆談を利用し障害児を育てた母親は7名，D：障害児個別支援を行う支援員は14名を担当した。いずれも指筆談を支援に用い，実践期間は5年以上である。

(2) 観察者：指筆談事例を50例以上観察し，対象者の障害特性を理解している者1名が書字の動きがあるかを確認した。

援助者に各対象に関する事前情報は伝えず指筆談を行うようにした。指筆談による援助を受ける全対象者とその家族が入室し着席した。待ち時間の間，対象児(者)は部屋の内外を自由に動くことができ，好きな活動をしながら待つようにした。援助者は，指筆談を行う対象者の利き手と反対側の横に座るようにした。対象者の名前を呼んで自己紹介の挨拶をし，援助者側にある手の人さし指を軽く持って援助者の手のひらにひらがな文字を書くよう促し，数回書く練習をした後，「○○さん，お母さん(他の家族や支援者等の場合もある)に言いたいことがあったら話してください。」と声を掛け，援助者の手のひらにひらがな文字を書くように指示した(図1)。援助者は，対象者のわずかな指の動きを読み取り，読み取った文字を音声にて表出するようにした。一度話し終えても続きがある場合は，他の対象者が話し終えた後で2回目を10分程度行うようにした。他の対象者の語った内容を聞いて伝えたいことが出てきた場合には，2回目で他の対象者と自由にやりとりできるようにした。観察者は，対象者の指が動いていることを確認した。表出された回答が本人しか知り得ない情報であると考えられる時は，観察者が「この内容でいいですか」と質問し，対象児(者)が頷く・援助者の顔を見る・保護者や介助者が「合っています」と答える様子から事実と一致していることを確認するようにした。対象者が自ら「わかります。」「かわります。」等のひらがな文字を書いた時点で終了とし，書字の内容を「言いたいこと」とした。

3. 分析方法

録画データを再生し，一字一句聞き取った通りに書き起こした。個人情報特定されるような単語や名詞などは省略や匿名化し，意味不明の語句や文は除外した。書き起こし文から91名分の逐語録をword文書で作成した。Wordの文章校正機能を活用し，誤字がないか確認し，修正した。91名分の逐語録をまとめた全テキストデータを作成した。普段は自らの考えを表出する機会が少ない対象児(者)が，限られた時間で話したいこと・伝えたいことには何か共通性があるのではないかと考え，全テキストデータを作成した。テキストデータの分析には，KHCoder(Ver.3.0)を使用した。テキストの特徴を表す語の抽出や語と語の関連性を解釈する際に活用できるソフトである。Key Words in context(以下，KWIC)コンコーダンス機能があり，特定の語がどのような文脈で使われたかを具体的に把握することができる。各対象者の「言いたいこと」には同義語で異なる表記の単語があるため，テキストデータの前処理を行った。樋口(2020)²¹⁾は，前処理により語の抽出が精密になると述べている。その後，形態素解析を行い，全テキストデータより150語の頻出語彙を抽出し頻度表の作成を行った。抽出語を対象にサブグラフ法により抽出語の出現パターンの似通った語(共起の程度が強い語)を線で結んだ共起ネットワーク図を作成した。出現数による語の取捨選択に関しては，最小出現数を45に設定し

た。ネットワーク図から共通して語られていると考えられるテーマや語について検討した。次に、抽出語と障害種別による対応分析を行った。特に障害特性や内面に関わる語についてはKWICコンコーダンスを用いて文脈や内容を確認し、各障害間における言いたいことの特徴を検討した。

4. 倫理的配慮

本研究に際して、上田女子短期大学研究倫理委員会の承認を得た(承認番号2021-7)。指筆談学習会に参加した対象者やその家族には、事前に書面にて調査研究の目的や方法、結果を論文で公表すること、研究への協力をしなくてもよいこと、途中で協力をやめてもよいことなどを説明し、書面にて同意を得た上で参加してもらうようにした。感覚過敏がある場合には、指筆談を短時間で行う、ペンと紙で行う、薄い手袋を着用するなどの対応や心身の不調の場合は、中断し次の機会に指筆談を行うなどが可能であることを伝えた。

Ⅲ 結果

1. 言いたいことに共通する特徴

対象者91名の指筆談の平均産出時間は約9分であった。全指筆談内容における総抽出語(出現した全ての語の延べ数)は94,665語、抽出語(語の種類を示す数)は25,036語であった。この中から助詞や助動詞、人名、固有名詞、組織名等を省き、2,171語を抽出語として使用した。出現頻度上位150の抽出語を表1に示す。この中から、出現頻度の高い語を対象に共起関係を上位60に設定して、サブグラフ検出法により作成した全テキストデータによる共起ネットワーク図を

表1 出現頻度が高い150語

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|------|------|------|------|-------|------|-------|------|---------|------|
| 人 | 691 | 子 | 88 | 書く | 55 | 全く | 39 | 間違う | 29 |
| 言う | 541 | 一番 | 82 | やり方 | 53 | いつか | 38 | 笑顔 | 29 |
| お母さん | 400 | 花 | 82 | 一生懸命 | 51 | 意見 | 38 | 全然 | 29 |
| 生きる | 391 | 意味 | 81 | 素晴らしい | 51 | 色々 | 38 | 価値 | 28 |
| 心 | 293 | 感じ | 81 | 多い | 51 | 切り捨てる | 38 | 最初 | 28 |
| 考える | 232 | 詩 | 80 | 難しい | 51 | 希望 | 37 | 咲く | 28 |
| 見る | 211 | ダウン症 | 78 | 美しい | 51 | 終わる | 37 | 周り | 28 |
| 分かる | 208 | 言える | 76 | 感謝 | 50 | 存在 | 37 | 大きい | 28 |
| 話 | 207 | 伝わる | 76 | 両親 | 48 | 悲しみ | 36 | 表情 | 28 |
| 伝える | 201 | 手 | 73 | 大好き | 47 | 筆談 | 36 | 教える | 27 |
| 今日 | 188 | 大丈夫 | 71 | 大変 | 47 | 簡単 | 35 | 胸 | 27 |
| 今 | 187 | 理解 | 70 | お願い | 46 | 空 | 33 | 苦勞 | 27 |
| 言葉 | 186 | ママ | 69 | 行く | 45 | 子ども | 33 | 光 | 27 |
| 聞く | 182 | 母 | 69 | 世界 | 45 | 辛い | 33 | 好き | 27 |
| 気持ち | 175 | 差別 | 68 | 生まれる | 45 | 体 | 33 | 大人 | 27 |
| 自分 | 156 | 時間 | 68 | 家族 | 44 | 話せる | 33 | 聞こえる | 27 |
| 社会 | 144 | 目 | 68 | 作る | 44 | 楽しい | 32 | 命 | 27 |
| 頑張る | 142 | 感じる | 67 | 小さい | 44 | 強い | 32 | 改めて | 26 |
| 障害 | 131 | 悲しい | 65 | 会う | 43 | 向かう | 32 | 皆さん | 26 |
| たくさん | 122 | 声 | 64 | 思い | 43 | 当たり前 | 32 | 素敵 | 26 |
| 人間 | 117 | 夢 | 64 | 障る | 43 | 毎日 | 32 | 題 | 26 |
| 世の中 | 116 | 考え | 63 | 心配 | 42 | びっくり | 31 | 日々 | 26 |
| 仲間 | 114 | 出る | 62 | 喋れる | 42 | 安心 | 31 | 良い | 26 |
| 嬉しい | 112 | 不思議 | 62 | 変わる | 42 | 場所 | 31 | お話 | 25 |
| 大切 | 111 | 困る | 60 | 一緒 | 41 | 全部 | 31 | 何だか | 25 |
| 話す | 105 | 来る | 58 | 字 | 40 | 楽 | 30 | 使う | 25 |
| 知る | 99 | 違う | 57 | 落ち着く | 40 | 先輩 | 30 | 指 | 25 |
| 持つ | 97 | 子供 | 57 | 家 | 39 | 増える | 30 | 他 | 25 |
| 幸せ | 95 | 優しい | 57 | 顔 | 39 | 普通 | 30 | カーネーション | 24 |
| 人生 | 94 | 大事 | 56 | 見える | 39 | 学校 | 29 | 何とか | 24 |

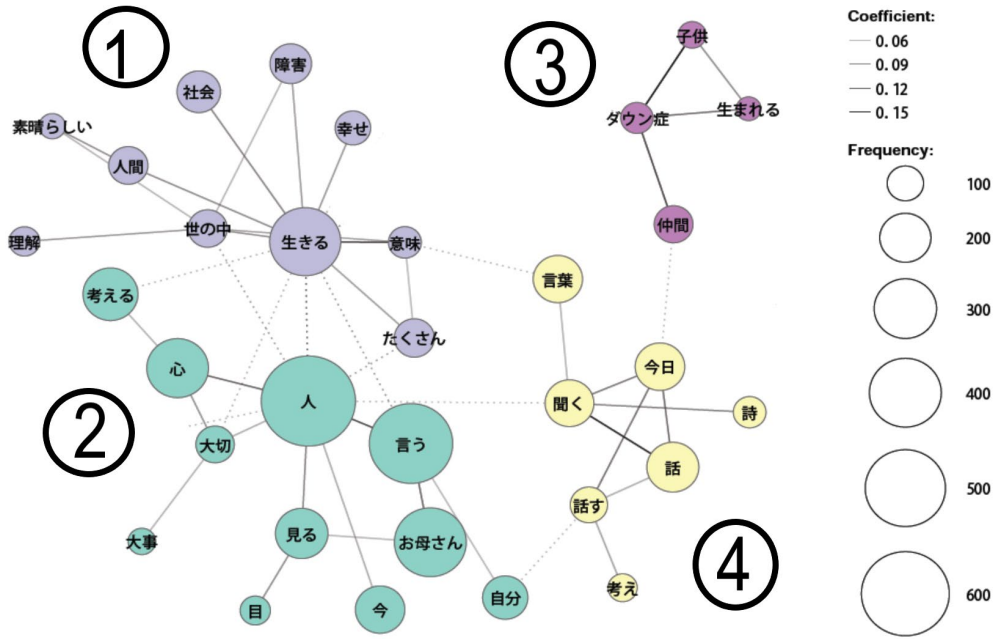


図2 言いたいこと全テキストデータによる共起ネットワーク
(①～④はカテゴリー・円の大きさは出現回数を示す)

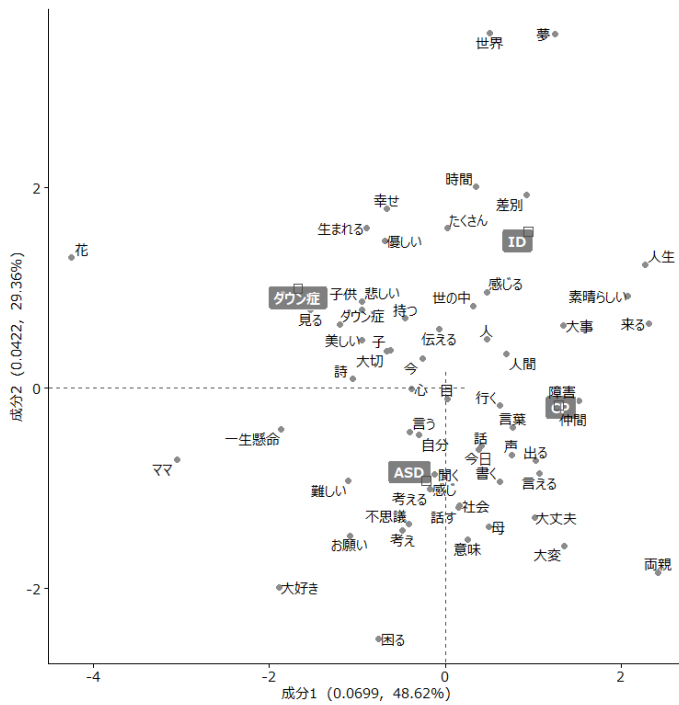


図3 対応分析から見る障害種別の特徴

表2 言いたいことのテーマに関連する指筆談内容(一部抜粋)

| カテゴリー | 指筆談内容(一部抜粋) |
|-----------------|---|
| ①【障害者として生きる意味】 | <p>・全ての人が受け入れられる社会であれば、誰も障害って言われても大丈夫だし、障害っていう必要もないかもしれないし、「みんなちゃんと幸せに生きられるよ」ということを社会はもっと考えなくてはならないのに、障害があると命に価値をつけられてしまうというのではみんな怯えて生きなくてはならないことになります。(ASD 11age)</p> <p>・みんなちゃんとしたことばを持っていてその言葉できちんと考えているんだと言うことを早く世の中が理解すれば障害の重い人も生きる意味って何だろうってなどという間違っただけの問いはなくなっていくに違いないと思う。僕も頑張って生きていこうと思います。(ASD 13age)</p> <p>・豊かな言葉を持ち、豊かな思いを待ち、豊かな人生を生きていた人たちは犯人は勘違いして殺してしまいました(相模原事件)というのが本当の事実なのだから。(ID 57age)</p> <p>・僕は、自分では何にひとつできない、結構重い障害ではありますが、それでもたくさんの生きる意味を日々感じながら生きていますので「そのことをしっかりと理解してもらわないと世の中はその間違いから目覚められないのかな。」と思っています。(CP 40age)</p> <p>・まとまってない意見を言っていました、やはり生きる意味というのはとっても大事なことなので一生懸命今考えているということです。(ASD28age)</p> <p>・特に最近はずぐに発達障害だと言ってその子大丈夫なんじゃないという子まで発達障害にされちゃうんで、私は確かに20%しか伝わらないから、言われても仕方がないけれどもその子はただ単に先生が嫌いなだけじゃないのという感じで本当に嫌だなと思います。私は20%分ハンデはあると思うけど、それだって障害って言われなきゃならないのかないつも思っている。(ASD10age)</p> |
| ②【人の心にとって大切なこと】 | <p>・私を見て私を大切にしてくれた人は今までもたくさんいたのですが、その人たちの心のような人を私たちはもっときちんと大事にしていかなければいけないと思います。こんな時こそ一番大切なものは何かを私たちはよく知っているのでもうそういう大切なことを改めて自分たちの言葉で言いたいと思っています。(ID38age)</p> <p>・どうしても母さんにはちゃんと伝えておきたいことがあります。それはここまで育ててくれてありがとうございましたと言うことです。(ASD34age)</p> <p>・全ての人が美しい心をもっているとやっぱり社会は救われるのでそういう方向に社会がむかえば良いと思っています。(ID 54age)</p> |
| ③【ダウン症の仲間】 | <p>・ダウン症の仲間が幸せに生きられる社会は、全ての人が幸せに生きられる社会だということをもう一回改めて考え直したいと思えますし、コロナの今だからこそ改めて命とは何かを考える時に障害のある人の命もまた同じ命として振り返ってもらえれば良いと思っています。(ASD 33age)</p> <p>・ダウン症の心は人々の幸せを願う心で満ちています。(ダウン症 12age)</p> <p>・なんだか、ダウン症の子供を産んだのは悪いことであるかのように言う人までいて、「今はもう検査があるのだから生まれるはずないのにねえ。どうしたのかしら。」などと言う人まで現れると、まるでお母さんが悪いことをしたかのように言われてしまいます。(ダウン症18age)</p> |
| ④【話を聞く、言葉を話す】 | <p>・今日は本当に話を聞きに来させてもらったという感じが強いので、この後もいろんな人の話をじっくりと聞かせていただきたいと思うので、よろしくお願ひします。(CP40age)</p> <p>・ほくも先輩の話は大好きです。だってこれから僕がどんなふう生きていくのか、どんなふう乗り越えていくのか心配ですが、そんなことを乗り越えてきた先輩の言葉に僕はとっても励まされるような気がするのでもっと聞いてみたいです。(ASD13age)</p> <p>・私が何か一生懸命話すことで世の中が変わる気がするのでも私は一生懸命話そうと思います。(ダウン症38age)</p> |

※ASD:自閉スペクトラム症 CP:脳性まひ ID:知的能力障害(年齢)

作成した(図2)。使用する抽出語は、出現回数45回以上とし、共起性尺度には集合の類似度を測る指標であるjaccard係数を用いた。図1では、強い共起関係ほど太い線で、出現数の多い語ほど大きな円で描画されているため、太い線で結ばれた抽出語は同じ文章内で重なって出現していたことを示す。共起ネットワークは10カテゴリーで構成された。このうち、4語以上から構成される4つのカテゴリーについて語の関連性からテーマをつけた。各カテゴリーの中心的な語のKWICコンコーダンスコマンドからそれぞれの語の文脈を探り、テーマの特徴を表す指

筆談内容の一部を抜粋した(表2)。図1の①カテゴリーに着目すると、「生きる」「障害」「意味」「世の中」など10の抽出語が見られた。これらの語と表2「一早く世の中が理解すれば障害の重い人も生きる意味って何だろうってなどという間違った問いはなくなっていくに違いないと思う。僕も頑張って生きていこうと思います。」等から①カテゴリーのテーマを【障害者として生きる意味】とした。図1の②カテゴリーは、「人」「言う」「心」「大切」「考える」など11の抽出語で形成されていた。これらの語と表2「一その人たちの心のような人を私たちはもっときちんと大事にしていかなければいけないと思います。こんな時こそ一番大切なものは何かを私たちはよく知っているのですという大切なことを改めて自分たちの言葉で言いたいと思っています。」等から②カテゴリーのテーマを【人の心にとって大切なこと】とした。図1の③カテゴリーに着目すると、「ダウン症」「生まれる」「子供」「仲間」など7の抽出語から形成されていた。これらの語と表2「なんだか, ダウン症の子供を産んだのは悪いことであるかのように言う人までいて、『今はもう検査があるのだから生まれるはずないのにねえ。どうしたのかしら。』などと言う人まで現れると、まるでお母さんが悪いことをしたかのように言われてしまいます。」等から、③カテゴリーのテーマを【ダウン症として生まれた仲間】とした。図1の④カテゴリーに着目すると、「話」「聞く」「言葉」「話す」など7の抽出語で形成されていた。これらの語と表2「私が何か一生懸命話すことで世の中が変わる気がするので私は一生懸命話そうと思います。」「いろいろな人の話をじっくりと聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。」等から、④カテゴリーのテーマを【話を聞く、言葉を話す】とした。

2. 障害種別における特徴

図2に対応分析から見た障害種別の特徴を示す。表3に、障害種別の近くに配置された語の前後の文脈をKWICコンコーダンスから探り、関連する文を一部抜粋した。対応分析では、語の相関関係が高いほど近くに配置される。寄与率の高い成分1の位置関係からIDとCPの抽出語は類似性が高く、ASDとダウン症の抽出語はやや異なっていると解釈できる。ダウン症を特徴づける語として、原点から離れた位置に「子供」「悲しい」「見る」「ダウン症」などがある。表3のダウン症の抜粋文から「出生前診断についての悲しい気持ち」や「ダウン症の子供は人の気持ちに敏感であること」等が語られていた。ASDを特徴づける語として「話す」「母」「考える」「社会」「意味」などが近くに布置され、表3「一話すのはやっぱり大変なことで話す前に考えていたことが上手く言葉にはなっていきません。だって最初はちゃんとしていたものが心の中にあるのにそれを口から出すとどんどん少なくなっていくのでとっても困っていますが、指で書くとどうして消えていかないのでしょうか。」等からASDの特性である表出コミュニケーションの困難さに関わる内容や心の中に考えがあることが語られていた。IDを特徴づける語として「差別」が布置され、表3の「障害は差別を生んでしまうので差別は人に不幸をもたらしてしまうので、やはり差別のない世の中を早くつくってほしいなと思っていますが、そのためにも僕たちはちゃんと僕たちの障害をしっかりと社会の中で表現する必要があるのかと思います。」等から障害による差別をなくすことが語られていた。CPを特徴づける語として「障害」「仲間」が布置され、表3から「同じ知的な障害があるとされる仲間がしっかりと団結して、世

の中に『みんな間違っているよ。見てごらんささい。僕たちは本当はこんなに深く物事を考えて生きているんだから、そこのところをしっかりと考え直して、もう一度優しい社会を作り直そうじゃありませんか。』というのが僕の主張になります。」や「私たちの仲間には早いうちに

表3 障害種別の特徴に関連する指筆談内容(一部抜粋)

| 障害種別 | 指筆談内容(一部抜粋) |
|------|--|
| ダウン症 | <p>・今日は出生前の診断の話ですが、私もこの話を聞いたときに、真っ先にああ私にも生きる場所がなくなくなるんだと、とっても悲しい気持ちになったことを今でもありありと思い出すことができます。本当に辛いのはそういうダウン症の子供だって、お母さんを亡くすことだってあって、そういう時こそ本当の悲しみがあるんだと思うのですが、人はまたその悲しみを乗り越えて生きていくから、悲しいぐらいで人の命を黙って消すようなことはしてはいけなと思っています。(ダウン症28age)</p> <p>・僕はその意味が最初はよく分からなくて、偶然だと思っていたのですが、段々そういう場面が増えてくるにつれて、ダウン症の子供たちには、僕の分かりにくい気持ちを分かる能力があるんだということが分かるようになって、そういう目で見てしているとダウン症の子供たちは他の大人の人の気持ちにもとても敏感に反応していることが見えるようになりました。(CP40age)</p> <p>・日本人には日本人の顔立ちもあるし、ダウン症には確かに顔立ちはあるのかもしれないけれども、それよりもっと大切なのは私たち一人一人の大切な個性です。(ダウン症12age)</p> <p>・でもお母さんの心配する気持ちすごくよくわかります。やっぱり私外からの冷たい目線すごく悲しくて、もし自分の子供がお腹の中に宿ったのをダウン症だからといって産まない選択をしたお母さんがいたら、本当に悲しかったに違いありません。(ID20age)</p> <p>私たちは知的な重い障害があると色々言われてしまって、まるでなんにもちゃんと考えていないかのように見なされることがとても悲しいです。(ダウン症age28)</p> |
| ASD | <p>・言いたいことを言おうとすると頭からいい考えが消えて、くだらない言葉ばかりが口から出てくる僕は、確かに少し遅れた子どもの話だと聞こえてしまうのですが、僕は決してそんな子どもではなくてちゃんとお母さんのことも考えているし、世の中のことだつてまじめに考えている子どもなのですが、どうしてもそれが伝わらないので歯がゆい思いをして生きてきましたが、こうしてこのやり方があれば僕だってちゃんとした人間であることが伝わるのでそれが嬉しいです。(ASD13age)</p> <p>・今は両親と話していると、一般の社会の人と同じ理解がちゃんとできるようになったので、「本当にいろんなことがわかるようになったな」とは思っていますが、残念ながら、まだ一歩外になると僕は重度の自閉症らしくてなかなか僕が全てを理解しているとは思ってもらえないのですが、でもだんだんそのことは伝わるようになってきていて、このやり方には及ばないけれども僕が色々理解しているよとお母さんが言ってくれると、「そうかもね」と言ってくれる優しい人がいるので、随分楽にはなってきたなと思います。(ASD28age)</p> <p>・私は20点分をこれで伝えるのです。じゃあ一生懸命話しますが、私はどうして20点分が伝わらないのか不思議で不思議で仕方ないのですが、話すのはやっぱり大変なことだと話す前に考えていたことが上手く言葉にはなっていないままです。だって最初はちゃんとしていたものが心の中にあるのにそれを口から出すとどんどん少なくなっていくのでとても困っていますが、指で書くとうして消えていかないうでしようか。(ASD10age)</p> |
| ID | <p>障害は差別を生んでしまうので差別は人に不幸をもたらしてしまうので、やはり差別のない世の中を早くつくってほしいなと思っていますが、そのためにも僕たちはちゃんと僕たちの障害をしっかりと社会の中で表現する必要があるのかと思います。(ID27age)</p> <p>・私のように見た目は障害があると実にかくさんの人から差別的な目を向けられるので人の心がそんなに素晴らしいとだけ言われてられない気がするのだけれど私たちにさえ、一生懸命声をかけてくれる人がいるということだけでも本当にこの社会は素晴らしい人たちがこの社会を支えているのだということを感じます。私たちに心無い声を投げつける人も心の底にはちゃんとした心を持っているはずなのですから。(ID37age)</p> |
| CP | <p>私くらい障害が重いと障害ってなんだか当たり前のことになっちゃってるので、それはもちろん小さい頃は悩みましたが私が歩けないのはなんだか当たり前だし、私がしゃべれないのもなんだか当たり前でその私をみんながこの子喋れないんだとかこの子歩けないんだと思うのもそれは当たり前で仕方のないことだとすっかり聞き直れていたんで、本当に元気に動いている子供たちが僕は一体障害があるんだらうかと悩むなんて言うのはすごくつらい気持ちだなと思いました。(CP20age)</p> <p>・仲間の言葉には仲間の死が結構テーマになっていたんで、私たちの仲間には早いうちに亡くなってしまった人達がいるのですがそのことも付け加えていきたいと思えます。多くの人たちはまるでその命が存在しなかったかのような扱いを受けてしまいます。(CP37age)</p> <p>・同じ知的な障害があるとされる仲間がしっかりと団結して、世の中に「みんな間違っているよ。見てごらんささい。僕たちは本当はこんなに深く物事を考えて生きているんだから、そこのところをしっかりと考え直して、もう一度優しい社会を作り直そうじゃありませんか。」というのが僕の主張になります。(CP40age)</p> |

※ASD:自閉スペクトラム症 ID:知的能力障害 CP:脳性まひ

亡くなってしまった人達がいるのですがそのことも付け加えていきたいと思います。多くの人は「私たちはまるでその命が存在しなかったかのような扱いを受けてしまいます。」等、障害のある仲間の命や生きていたことを意識した内容が書かれていた。ここでは、CPの人の特性とも捉えられる短命のことについて取り上げられていた。

IV. 考察

1. 内言における思考に共通する特徴

本研究では、91名の重度・中度知的障害児(者)に対し、指筆談を通じて書かれた「言いたいこと」の内容を計量テキスト分析し、内言に共通する考えや本人自身からみた障害特性について、抽出語の種類や結びつき及び文脈から探ることを目的とした。その結果、【障害者として生きる意味】、【人の心にとって大切なこと】、【ダウン症として生まれた仲間】、【話を聞く、言葉を読む】の4つのテーマが読み取れた。4つのテーマに共通しているのは、「仲間意識」と「障害受容」であった。これは、大塚(2022)の予備的研究と一致していた。表2や表3の中には、「私たち」「自分たち」などの2人称が使われており、「仲間」という語も抽出語の上位にあり、「仲間の言葉」という表現が見られることなどから、指筆談学習会に参加していた障害のある他の人や社会で生活する障害児(者)の存在を意識し、話したり、聞いたりしていることが推察された。【ダウン症として生まれた仲間】の背景には出生前診断の話題があり、「墮胎されてしまうことへの悲しみ」について書かれていることから、ダウン症児(者)が、出産を控えた母親のダウン症に対する障害受容に言及していることが読み取れる。木谷(2015)は、ASD当事者の手記からASD当事者同士では体験している世界が近いことからごく自然な形で身体と情動の共鳴が起こると考えられると述べている。ASDやIDやCP児(者)が、障害種別は異なってもダウン症の出生前診断について他の人が話した内容を聞き、同様のまたは近い体験があるためにダウン症の人を仲間として意識し、生まれて来られない悲しみや母親の選択した際の苦しみを共有していることが推察される。【障害者として生きる意味】については、この背景には相模原障害者施設殺傷事件(2016年に起きた知的障害者施設内での元職員による大量殺人事件)の話題がある。「みんなちゃんとしたことばを持っていてその言葉できちんと考えているんだと言うことを早く世の中が理解すれば障害の重い人も生きる意味って何だろうってなどと間違った問いはなくなっていくに違いないと思う」と書いてあることから、二宮(2019)²²⁾が述べているように、事件の本質が意思疎通の有無による差別にあることを指摘し、ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の考え方を世の中に求めていると推察される。【話を聞く、言葉を読む】について、指筆談では「言葉」「考え」「考える」「理解」などの語が複数のカテゴリー内にみられることから、普段は表出がないが『内言』として思考している可能性が考えられ、東田(2013)²³⁾が、「表現ができなくても心の中に言葉を持っている」と述べていることや、山登(2017)²⁴⁾が言語失行というタイプ(表出はできないが、思考力や言語理解力はある)のASD者がいると述べていることとも一致している。失語症や高次脳機能障害などのように脳の損傷した人は、考えや思想を外部に発表したり、身体で表現したりできなくなることがある。しかし、それは機能に

おける障害であって、実際は考える力や意志を全く失ったわけではないと考えられており、中度・重度知的障害児(者)にも同様のケースがある可能性が考えられる。

2. 障害種別における特徴

障害種別の中で、IDとCPは指筆談からの抽出語の内容に類似性がみられたが、IDを特徴づける抽出語「差別」について、抜粋した表3の文からは、「見た目障害があるとわかることから差別的な目を向けられる」という背景が推察される。CPについても車いすで移動・生活している対象者が多いことから見た目で差別を受けるIDと同様の傾向があると考えられる。差別は、人に不幸をもたらすため、差別のない世界を求めると同時に、一方で優しい心・差別のない目で声をかけてくれる人がいることに支えられていることについても言及している。このことは、前述したようにソーシャルインクルージョンの考え方を支持する方向と考えられる。

篠原・大月(2023)²⁵⁾は、ダウン症児の母親が出生後の否定的な受け止めからわが子への見方を変化させ肯定的な受け止めへと変化していく過程を分析しているが、否定的な受け止めに至る背景に母親が〈世間の否定的反応による辛さ〉があると述べている。ダウン症を特徴づける語「子供」「悲しい」「見る」からは、出生前診断について出産以前に母親から受容されない仲間がいることへの悲しみ、一方で生まれてよかったという考えが書かれており、「悲しいくらいで人の命を黙って消すようなことをしてはいけません。」という記述から命の選択や生きることの意味について考えていることが示唆された。小島(2006)²⁶⁾は、ダウン症の能力的な側面だけでなく、本人が抱えている想いや感情、内的な世界に着目していくことの重要性を述べているが、当事者が考えを発信する機会は少なく、指筆談による書字ではあるが、出生前診断について、ダウン症者からの1つの内的な情報提供であると考えられる。ASDは、ID・CP・ダウン症とは異なる抽出語の内容であったことの要因の1つとして外見が一見ただけで障害があると分かりにくいことが考えられる。

ASDを特徴づける語「話す」「聞く」「考える」「社会」「言う」などから文脈を探り、抜粋した文によれば「普通に考えていること、言葉がうまく出てこないこと、考えているのにうまく伝えられないこと、考えていることと違う言葉が口から出ること」など言葉があるのに表出しにくいという点、「最初はちゃんとしていたものが心の中にあるのにそれを口から出すとどんどん少なくなっていくのでとっても困っていますが、指で書くとどうして消えていかないのでしょうか。」など発話と書字に違いがある点が共通していると推察される。熊谷(2014)は、知的な遅れのないASDの当事者にインタビューした研究の中で「音声言語で話そうとすると自分の声であっても意味が取りにくい上に、すぐに消えてしまうが、文字言語だと明確な意味が消えずに残る」という内容を挙げており、発話と書字の違いがある点で一致している。

V. 今後の課題

今回の指筆談の分析から中度・重度の知的障害当事者に『内言』がある可能性が示唆され、言語表出過程の困難さ、障害受容に対する考え、差別に対する社会への指摘など貴重な内容が含まれていたことに本研究の意義があると考えられるが、全テキスト分析では個々のケースの

書字の内容変化や個々の意思に添った支援のあり方については明らかにできない。また、障害種別の詳しい分析についても今後、さらに検討していく必要があると考える。

謝辞

本研究実施にあたり、対象となった方々および援助者の方々へ感謝申し上げます。本研究はJSPS科研費JP21K18544の助成を受けたものです。

文献

- 1) 厚生労働省(2017). 障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン. 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部2017. 3.
<https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000786189.pdf> (2022年3月15日閲覧)
- 2) 文部科学省(2013)教育支援資料.
www.mext.go.jp/component/a.../06.../1340247_08.pdf (2022年2月18日閲覧)
- 3) 亀畑義彦・大嶋謙一(1989)精神発達遅滞児童の語彙能力, 北海道教育大学紀要, 教育科学編, 39, 89-104.
- 4) 佐藤洋子(2017)意志疎通が困難な者への障害種別ごとに求められる支援手法に関する文献レビュー, 保健医療科学, 66(5), 502-511.
- 5) 小笠原恵・守屋光輝(2005)知的障害児の問題行動に関する調査研究-知的障害養護学校教師への質問紙調査を通して-. 発達障害研究, 27, 137-146.
- 6) 東田直樹・東田美紀(2005)この地球(ほし)にすんでいる僕の仲間たちへ~12歳の僕が知っている自閉の世界~. エスコアール.
- 7) 若林慎一郎(1973). 書字によるコミュニケーションが可能となった幼児自閉症の一例 精神神経学雑誌 75(6), 339-357.
- 8) 落合俊郎(1993). 描画・書字における表出援助法の工夫について 国立特殊教育総合研究所紀要, 20, 9-15.
- 9) 要田洋江(2009). 重度『知的障害』者と呼ばれる人々へのコミュニケーション支援に関する一考察-ファシリテッド・コミュニケーション利用者の『社会的障壁』-」生活科学研究誌, 7, 7-101.
- 10) 落合俊郎・小畑耕作・井上和久(2017).Facilitated Communication(FC)と表出援助法の比較研究 特別支援教育実践センター研究紀要, 15, 11-22.
- 11) 東田直樹(2014)跳びはねる思考, イースト・プレス.
- 12) 木谷岐子(2015)自閉症スペクトラム障害の成人当事者が捉える「自分」: M-GTAを用いた質的研究. 北海道大学大学院教育学研究院紀要, 12, 1-25.
- 13) 熊谷晋一朗(2014)当事者研究に関する理論構築と自閉症スペクトラム障害への適用. 東京

大学博士論文.

- 14) 毛塚恵美子(2004)「Facilitated Communicationーコミュニケーション支援か幻想か?ー」
発達障害研究, 25(4), 289-299.
- 15) 要田洋江(2014)「知的障害」概念の脱構築-筆談援助法(FC)利用の社会的障壁と専門科学-
大阪市立大学「人権問題研究」14, 187-252.
- 16) 柴田保之(2011)言語の生成に関する知的障害の新しいモデルの構築に向けて. 國學院大學
人間開発学研究, 2, 5-23.
- 17) 柴田保之(2013)「自閉症」の新しい理解をめざして. 國學院大學人間開発学研究, 4, 77-
84.
- 18) 惠羅修吉・伊賀友里奈・泉保由布子(2012)知的障害のある生徒における受容言語能力と表
出言語能力の関連 - 語彙レベルにおける予備的研究 -. 香川大学教育実践総合研究, 24,
111-118.
- 19) 大塚美奈子(2022)知的障害児(者)の筆談援助法による表出言語に関する一考察ー「言いた
いこと」のテキスト分析を通してー. 上田女子短期大学紀要, 45, 97-108.
- 20) 東京都福祉局 対象者(愛の手帳Q&A)
https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shinsho/faq/techo_qa/taishou.html(2023年6月15
日閲覧).
- 21) 樋口耕一(2020)社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー.
ナカニシヤ出版.
- 22) 二宮雅人(2019). 現代の障害者差別の中の「相模原障害者施設殺傷事件」の位置づけー優
生思想の本質を再考し, 新たな視点からー. 社会臨床雑誌, 27, 1, 37-43.
- 23) 東田直樹(2013)あるがままに自閉症です, エスコアール出版部.
- 24) 山登敬之(2017)喋れなくても言葉はある, わからなくても心はあるー自閉症当事者とのコ
ミュニケーションー 児童青年精神医学とその近接領域 58(4), 507-513.
- 25) 篠原理恵・大月恵理子(2023)「母親のわが子がダウン症であることを受容」の概念分析.
日本母性看護学会誌, 23(2), 1-8.
- 26) 小島道生(2018)その子らしさを伸ばす;学齢期ダウン症児の支援. 脳と発達, 50(2), 125-
127.